深い学びを活用した生徒会活動

愛知県立小牧南高等学校長
小塩卓哉

この「みなみかぜ」は生徒会の機関誌です。最近の生徒会の皆さんの活躍を紹介するのにふさわしい場なので、その一端を記すことにします。本校のホームページや、新聞でも報道されたので、知っている人も多いかもしれませんが、「平成二十九年度高校生まちづくりスクールミーティング」が十月二十日（金）に本校の会議室で行われました。このスクールミーティングは、小牧市の公式行事です。市のホームページにもその様子が紹介されていますので紹介しておきましょう。

> 小牧南高等学校の生徒のみなさんとまちづくりスクールミーティングを開催しました。グループに分かれた生徒のみなさんが、図書館利用者の視点から「親しまれる図書館」をテーマに意見を出し合い、発表を通して市長と話し合いました。今回は、参加者以外の生徒のみなさんが傍聴者として会場内を動いてグループ討議の様子を見学し、熱気に包まれた大変活発な会となりました。若い世代のみなさんのアイデアをお聴きするだけでなく、生徒のみなさんが、まちづくりへの関心を高めていただくことも目的としています。

直接引用したのには訳があります。「今回は、参加者以外の生徒のみなさんが傍聴者として会場内を動いてグループ討議の様子を見学し」の部分を、具体的に紹介しようと思ったからです。生徒会の役員の皆さんは意欲的で、当日に先立って、小牧市立図書館へ見学に行ってくれました。また、三班に分かれてグループ討議をしまとめたプランを投票で決めるのならば、協議の当事者である役員だけでなく、生徒議会の議員もギャラリーとして参加し、投票に加わることで客観性を高めようということとなりました。

当日は、議員有志の人たちが、会場内を積極的に移動して、協議の様子を見守ってくれました。会場の会議室には設計を担当する建築士の新居千秋先生が、東京からお越しになっておられ、活発な議論とそれを取り巻くギャラリーをご覧になり、大変刺激を受けておられました。新居先生は、横浜みなとみらいにある横浜赤レンガ倉庫の設計などで有名です。ここは、私にとっても、四十代の時から何回も訪れているお気に入りの建築で、横浜の港湾文化を彷彿とさせる人気のスポットなのです。

小牧市の図書館をどうするかについての話し合いは、市全体でも行われており、新居先生の希望もあり、十二月から本校生徒会からも代表がそのワークショップに出席をしています。一流の建築士の方とともに、小牧の文化の拠点である図書館の在り方について話し合えるご縁をいただけることを喜ぶとともに、意欲的に取り組むことでそのような機会を得た本校の生徒会、議会の諸君を誇りに思っています。

さて、十月のミーティングの決して予習ということではなかったのですが、九月二十六日（火）には、生徒会の役員六名と旧役員二名が集まってグループワークを行いました。ただグループで討議をするだけでなく、マインドマップという手法を用いました。マインドマップとは、紙の中心にテーマを書き、そこから放射状に線と字を書いていくもので、頭の中で起こっていることを可視化できる思考ツールです。テーマには昨年のこの文章でも紹介した、本校生徒会が編集した杉原千畝記念「高校生が選んだ人権百人一首」を選びました。生徒会の今後、緊迫する世界情勢の行方、自分の将来について、生徒会が学んできた杉原千畝の人道・平和の精神を出発点にして、各自がマップに書き込むことで、先輩から後輩へ冊子編纂の知見の引き継ぎも行うことができたと思います。

本校は、昨年から愛知県教育委員会の研究指定を受けて、アクティブ・ラーニングを導入していますが、授業で身に付けた、主体的、対話的な学びの経験は、スクールミーティングやマインドマップ作りに際しても、参加生徒の主体性に大いに貢献していると確信をしました。だからこそ新居先生から高い評価を得たのだと思います。

本館棟と生徒棟の間の通路に壁新聞を掲示するなど、生徒会の皆さんは積極的にアイディアを出し行動に移しています。生徒会に限らず、小牧南高校ならではの深い学びが、今後も学校生活の充実のために、随所で役立てられていくことを願っています。

（平成 29 年度小牧南高等学校生徒会誌「みなみかぜ」第 36 号巻頭言より）